高雄中だより

令和２年１月７日
京都市立高雄中学校
なかま　夢　成長
未来を創造したくましく生き抜く力の育成

謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

世の中のめまぐるしい移り変わりや多彩な変化に対応していくことが望まれる今の時代にあっても，清新な気分とともに無病息災・五穀豊穣・開運招福などを願いながら新年を迎える正月は，日本独自の文化が受け継がれてきていると感じます。

冬休み期間中に次のような逸話を目にしました。言語の響きに敏感なある外国人のソプラノ歌手が，「劇団四季」の浅利慶太氏に「イタリア語は『歌に向く言葉』，フランス語は『愛を語る言葉』，ドイツ語は『詩を作る言葉』」と評し，日本語については『人を敬う言葉』と答えたということです。尊敬語，謙譲語，丁寧語といった繊細な敬語表現を備えた日本語はそうした特性があるのかも知れません。

一方で，「現在の日本は，許し許される心を忘れ，何でも白黒つけたがる方向に進んでいる」 といった記述もありました。これは物事を 「白か黒か」「善か悪か」「0 か 100 か」 二分法的に捉えるのはわかりやすいが，グローバル社会が現実となってきた今，多様な価値観を認めることが重要であり，多様な考え方・生き方を認め合うことが求められているということです。「断罪して裁かなくては気が済まない。相手を打ち負かさなくてはいられないといった酷薄な『正義』が透けて見える」そんな時代の風潮を指摘しています。

入学式でも述べましたが，古来，聖徳太子が「和を以って貴しと為し・・・」と説き，人間にとって一番大切なのは，人と人との関係において協調性（折り合いをつける）を保つことであることを示しました。そうした姿勢は「寛容さ」を育み，「多様性」の受容へとつながってきました。それが他国の良さを取り入れ，歴史的に短期間で日本が発展してきた要因であるとも考えられています。

国・地域・人のそれぞれの単位の異文化を理解すると同時に，自国が長年醸成してきた文化を振り返り，改めてその意義をしっかりと捉え，伝えていくことの大切さを感じます。何事もその本質を見失わないように確実に見極める，それを念頭に学びに生かす学校づくりに取り組んでまいりたいと存じます。

学校教育目標

「未来を創造したくましく生き抜く力の育成」

高雄中学校の生徒一人一人が，今年も元気に充実した学校生活を送れるよう教職員一同，一丸となって努力してまいります。保護者，地域の皆様には，これまで同様の変わらぬご支援，ご協力を賜りますようお願い申し上げ，新年の挨拶とさせていただきます。

◆右京支部生徒会交流会

12 月 25 日（木）終業式後，四条中学校で右京支部生徒会交流会が開催されました。

本校はまだまだ緊張感が漂う 3 番目の発表でした。新体制になって初めての対外的な活動でしたので，参加した会長以下４名も会場の雰囲気以上の緊張感がありました。しかし，実際に発表が始るとしっかり考えていた内容をもとに，良い姿勢と視線で淀みなく本校生徒会活動の特徴を発信することができました。その後，ワールドカフェ方式の討論が行われ他校生徒会との交流を深めました。他校の生徒会活動に学んだことが多くあったと思います。終了後の感想では“次回はもっと発言する”との声が挙がっていました。是非，本校を一層良くするための活動を創造し，実際に取り組むとともに対外的な発信にも努めていきましょう。新体制のリーダーシップに期待しています。